

## 識字率向上月間および 世界ローターアクト週間にあたって 識字率の高さが日本を救った

国際ロータリー第2660地区 ガバナー

**泉 博朗**

(大阪帝塚山RC)



識字率と言えば、日本の識字率の高さが、いろいろな場面で日本を救ったということが思い出されます。日本の識字率の高さは世界一です。識字率が高いということは、情報の伝達が早いということです。幕末において列強国の技術があつという間に広がり、日本は、列強の植民地になることを免れました。ただ単なる勤勉さや精神力だけではないはずです。敗戦後、アメリカのGHQは漢字を廃止して、日本の文字をアルファベットにしようとした。ただ、あまりの識字率の高さに、教育水準の高さに感嘆し、あきらめたわけでありました。あの時、もし、アルファベットになっていたら、私たちのかばんの中は単行本ではなく、電話帳の様に分厚い本でいっぱいになっていたでしょう。

日本人が協調的と言われる理由の一つに、高い識字率で、情報を共有しているからではないでしょうか。

明治時代のベストセラーは福沢諭吉氏の「学問のすすめ」であります。実に人口3000万人の時、300万部出版されたとのこと。そして、「流行」もあつという間に全国に届く事となります。なぜ、日本の識字率が高いのでしょうか。それは、カナ文字があるからではないでしょうか。

まず、幼い子でもわかりやすい、カナ文字で文字になじむことが出来ます。文字で気持ちを伝える楽しさを早い時期に覚えます。皆さんも「ばばありがとう」「おかあさんありがとう」という手紙を、幼い子供からもらった記憶はあるでしょう。識字率や、就学率を向上させるためには、伝えたいという気持ち、学びたいという気持ちが大事であります。

単に、紙と鉛筆があればよいというものではありません。喜怒哀楽に満ちた文化、芸能を通じて、知りたい、伝えた

いという気持ちを起こさせることも大事ではないでしょうか。もちろん、紙も鉛筆もそれを実現するために必要ではあります。今、足元の日本の識字率は大丈夫でありましょうか。絵文字等が悪いというのではなく、思いを伝えなくてもよい、又は伝わらない、と若者たちが思うことが問題なのであります。

どうぞ、若者の思いを聞く状況を作って欲しいわけでありました。識字率の問題は文字の形を知っているということではありません、文字を使ってどれだけのものを伝えられるか、ではないでしょうか。

### 世界ローターアクト週間

ローターアクトクラブがはじめて認証されたのは、1968年3月13日、アメリカのノースシャーロットロータリークラブがスポンサーとなったノースカロライナ大学のノースカロライナローターアクトクラブであります。この3月13日を「世界ローターアクトの日」と定め、3月13日を含む1週間を「世界ローターアクト週間」と指定されたわけでありました。

当地区では、今年3月15日(日)に「世界RACデー」を行います。世界中で執り行われ、世界のローターアクターが連携をいたします。ローターアクターがロータリーの国際性を理解する場でありました。ロータリアンの皆様も、ぜひとも、ローターアクトに対し、ロータリーの国際性を伝えて欲しいと思います。できれば、国際奉仕プロジェクトや、海外の姉妹クラブに連れて行ってほしいと思います。

「百聞は一見にしかず」であります。どうぞ、ローターアクターに様々な体験をさせていただきたいのです。日本の未来は彼らの肩にかかっているからであります。